

令和3年度

適 性 検 査 Ⅲ

注 意

- 1 問題は [1] から [3] までで、6ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は45分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、**解答用紙**だけ提出しなさい。
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから、新しい解答を書きなさい。
- 6 性別・受検番号は解答用紙の決められた欄^{らん}3か所に必ず記入しなさい。

さいたま市立浦和中学校

太郎さんは、日曜日にお父さんと過ごした出来事について先生と話をしています。

以下の会話文を読んで、問いに答えなさい。

【太郎さんと先生の会話】

太郎さん：昨日、父の仕事が休みだったので、1年ぶりにキャッチボールをしました。とても楽しかったのですが、父が腰を痛めてしまいました。前回運動したのは、1年前のわたしとのキャッチボールのときだったようです。運動不足の人は多いのでしょうか。

先生：それは大変でしたね。では、資料1を見てください。これは、スポーツ庁が実施した「スポーツの実施状況等に関する世論調査」から全国の20歳以上の男女のデータをまとめたものです。資料1を見て何かわかることはありますか。

太郎さん：資料1を見ると、運動不足を感じている人が多いようです。

先生：そのようですね。また、運動・スポーツを行わなかったと回答した人たちの理由は、資料2を見ればわかります。

太郎さん：さまざまな理由があるのですね。ところで、運動をしている人は、おもにどのような種目を行っているのでしょうか。

先生：それについては、資料3が参考になります。

太郎さん：わたしたちが日ごろ行うことが多いサッカーやバスケットボールは、上位6種目に入っていないのですね。

先生：そうですね。これらをまとめて、授業参観日に何か発表することはできますか。

太郎さん：はい。「運動不足を解消するために」という題で発表しようと思います。まず、資料1から、運動不足を感じると回答した人の割合について、各年度に共通する特ちょうを述べます。次に、資料2から、運動・スポーツを行わなかった理由について最も多かった項目をあげます。そして、資料3にあげられる項目の運動・スポーツを行うのに必要な人数の特ちょうについて述べ、資料2で取り上げた項目の解決策を提案します。最後に、参観に来た保護者のみなさんに向けて、積極的に運動するように呼びかけたいと思います。

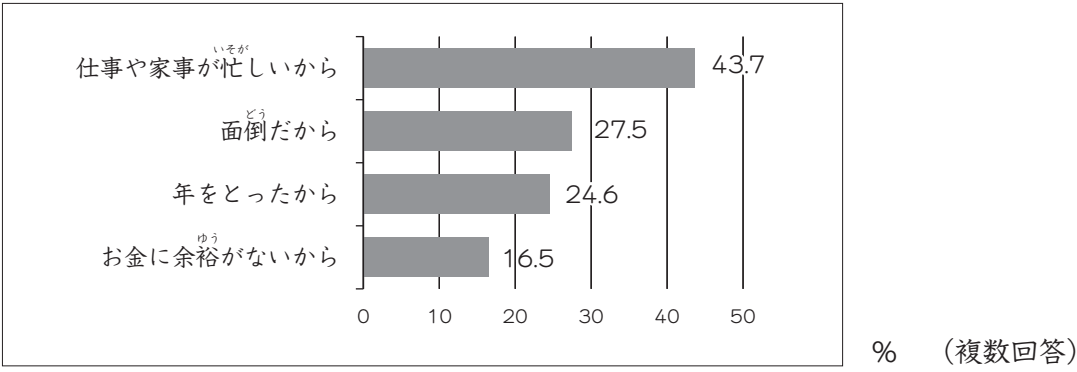
先生：楽しみにしています。

資料1 運動不足を感じるか

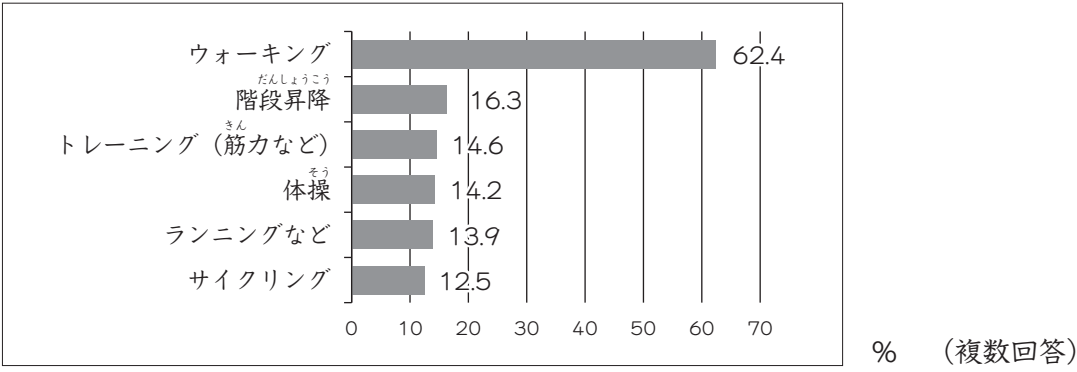
年 度 (調査対象者数)	平成28年度 (19506人)	平成29年度 (19502人)	平成30年度 (19516人)	令和元年度 (19510人)
大いに感じる	38.8%	41.4%	39.3%	37.3%
ある程度感じる	38.3%	38.2%	41.1%	41.4%
あまり感じない	15.1%	13.6%	13.7%	14.6%
全く感じない	5.7%	5.0%	4.3%	4.7%
わからない	2.1%	1.8%	1.6%	2.0%

(平成28年度～令和元年度 スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」をもとに作成)

資料2 運動・スポーツを行わなかった理由



資料3 この1年間に行った運動・スポーツ（上位6種目）



資料2、資料3（令和元年度 スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」をもとに作成）

問 あなたが太郎さんなら、どのような発表原稿を作成しますか。次の条件に従って書きなさい。

- 条件1：解答は横書きで1マス目から書くこと。
- 条件2：文章の分量は300字以内とすること。
- 条件3：数字や小数点、記号についても1字と数えること。

(例)

4	2	.	5	%
---	---	---	---	---

花子さんと先生は、二酸化炭素^{はい}排出量を減らす取り組みについて話をしています。

以下の会話文を読んで、問いに答えなさい。

【花子さんと先生の会話①】

花子さん：二酸化炭素排出量を減らすことは、地球温暖化^{だん さく}への対策として必要なことだと思います。
どのような取り組みがあるのでしょうか。

先生：例えば輸送については、別の会社どうしが協力することで、二酸化炭素排出量を減らす
取り組みが行われているそうです。インターネットで調べてみませんか。

花子さんはインターネットで調べ、A社、B社の2つの会社が荷物を運ぶ方法を工夫することで、
二酸化炭素排出量を減らす取り組みを計画していることを知りました。

資料1 現在のA社とB社の輸送方法

A社は年間3000トン、B社は2800トンの荷物を、それぞれA県からI県に運んでいる。
A社とB社は、同じ車種の10トントラックを使っている。

●A社、B社の輸送経路：A県からI県まで600kmの道路を10トントラックで運ぶ。



●A社の輸送手段^{だん}：10トントラック（積める荷物の最大量：10トン）



コンテナ

毎回、荷物を10トン積んで運んでいる。荷物を積むとコンテナの容量の約50%分になる。

●B社の輸送手段：10トントラック（積める荷物の最大量：10トン）



コンテナ

毎回、荷物を7トン積んで運んでいる。荷物を積むとコンテナの容量の約100%分になる。

資料2 これからのA社とB社の輸送方法

これまでより大きなトラックにA社、B社の両方の荷物を共同で運ぶ。

●A社とB社の輸送手段：20トントラック

（積める荷物の最大量：20トン、積める荷物の容量は10トントラックの2倍。）



コンテナ

A社、B社の荷物を積む。毎回、荷物を20トン積んで運ぶ。
荷物の容量はコンテナの約95%分になるように積む。

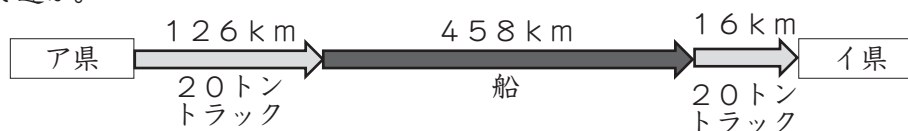
また、花子さんは、A社とB社の共同輸送における経路に2つの案があることを知りました。

資料3 A社とB社の共同輸送における経路の2つの案

案①：A県からI県まで20トントラックで運ぶ。



案②：A県からI県までの600kmを20トントラックで運ぶが、途中20トントラックを船^とにのせて運ぶ。



資料4 輸送手段別二酸化炭素排出量

	輸送手段	輸送距離 (km)	1年間の 荷物の重さ (トン)	1回に運べる 荷物の重さ (トン)	1回の輸送での 二酸化炭素排出量 (トン)
A社	10トントラック	600	3000	10	0.54
B社	10トントラック	600	2800	7	0.50
A社+B社 案①	20トントラック	600	5800	20	0.90
A社+B社 案②	20トントラック	142	5800	20	0.21
	船	458	5800	20	0.36

※二酸化炭素排出量は、二酸化炭素の重さで表している。

【花子さんと先生の会話②】

花子さん：資料1から、現在のA社とB社の輸送方法がわかります。また、資料2のようにA社とB社の荷物を1つのトラックに積んで共同輸送する方法があり、さらに、共同輸送における経路について資料3のように2つの案があります。資料4からは、それぞれの1回の輸送での二酸化炭素排出量がわかります。

先生：よく調べましたね。地球温暖化の対策の一つとして、資料4を使って、A社とB社が共同輸送すると、現在と比べて二酸化炭素排出量をどれだけ減らすことができるか、総合的な学習の時間で発表してくれませんか。

花子さん：はい、わかりました。では、資料4から、現在のA社とB社の年間の二酸化炭素排出量を計算してそれぞれ示します。次に、共同輸送したときの1年間の輸送回数を計算して示すとともに、それぞれの案での1年間の二酸化炭素排出量を計算して示します。そして、現在よりも二酸化炭素排出量をどれだけ減らすことができるかを資料3の案①と案②のそれぞれについて百分率で示し、どちらの案が二酸化炭素排出量をより減らすことができるか、説明したいと思います。

先生：がんばってください。発表を楽しみにしています。

問 あなたが花子さんならどのような発表原稿を作成しますか。次の条件に従って書きなさい。計算結果は小数第2位まで求めて四捨五入し、小数第1位まで書きなさい。なお、数式は書かなくてよいものとします。

条件1：解答は横書きで1マス目から書くこと。

条件2：文章の分量は250字以内とすること。

条件3：数字や小数点、記号についても1字と数えること。

(例)

4	2	.	5	%
---	---	---	---	---

花子さんは、「救急安心センター（#7119）」の利用について総合的な学習の時間で発表することになり、準備をしながら太郎さんと話をしています。

以下の会話文を読んで、問いに答えなさい。

【花子さんと太郎さんの会話】

花子さん：太郎さんは、救急安心センター（#7119）を知っていますか。

太郎さん：知りませんでした。それは何ですか。

花子さん：地域によって呼び方は異なりますが、「すぐに病院に行った方がよいか」や「救急車を呼ぶべきか」など、悩んだりためらったりしたときに、電話をするところです。電話口で医師や看護師などの専門家が救急相談に応じてくれるそうです。先日、病院に行ったときにポスターを見かけ、一緒にいた母が「もっと早く知りたかった」と言っていました。

太郎さん：そうなのですね。

花子さん：太郎さんのように救急安心センター（#7119）のことを知らない人もいます。そこでわたしは、救急安心センター（#7119）の利用について総合的な学習の時間で発表しようと思い、資料を見つけました。資料1では、救急自動車の出動件数の移り変わりがわかります。資料2からは、救急自動車で運ばれた人の病気やけがの程度とその割合がわかります。救急自動車とは、救急車のことです。

太郎さん：救急車で運ばれた人の病気やけがの程度のうち、入院を要しない軽症の割合は半分以上なのですね。

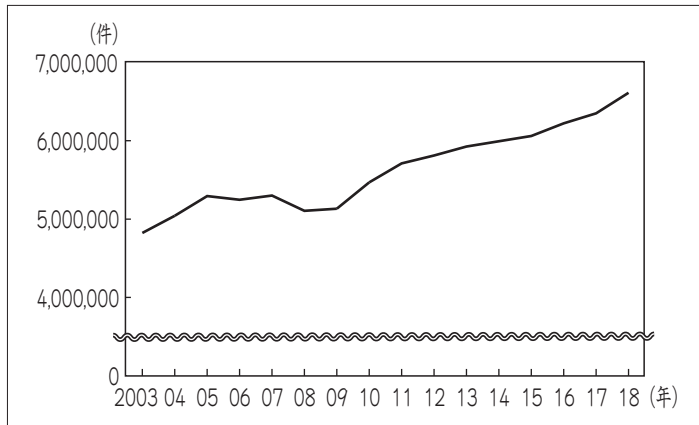
花子さん：はい。この資料2は、病院などの医療機関に運ばれてからの医師の診断結果を表したもののなのですが、事故やけがの現場では、緊急時ということもあり、救急車が必要かどうかの判断が難しいのだと思いました。そこでさらに資料を探し、資料3と資料4を見つけました。

太郎さん：花子さんはどのように発表しようと考えていますか。

花子さん：最初に、資料1から救急車の年間出動件数の変化を述べ、資料2から救急車で運ばれた人の病気やけがの程度についての特ちょうを述べます。次に、資料3から、救急車が必要かどうかの判断にまよい、救急安心センター（#7119）を利用する場合、どのような流れで進んでいくのか、順を追って説明します。最後に、資料4を踏まえながら救急安心センター（#7119）の効果について2つあげ、わたしだったらどのようなときに利用したいか、自分の考えを述べたいと思います。

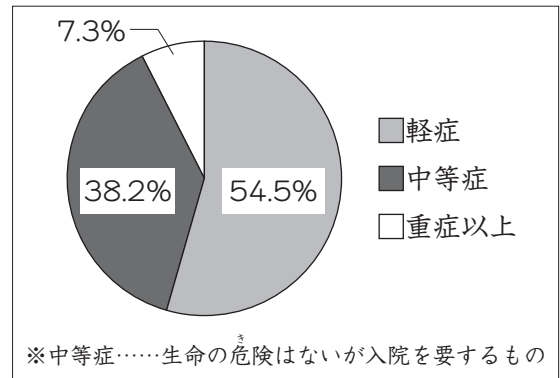
太郎さん：発表を楽しみにしています。

資料1 救急自動車の年間出動件数の移り変わり(全国)



(総務省消防庁「令和元年版 消防白書」)

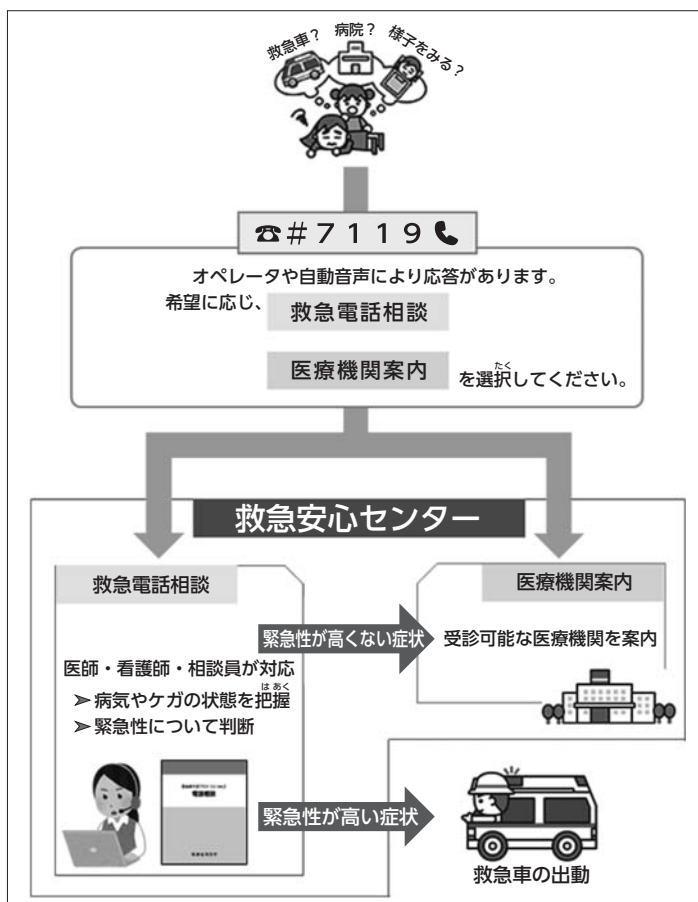
資料2 救急自動車で運ばれた人の病気やけがの程度(最初の診断時)



※中等症……生命の危険はないが入院を要するもの

(東京消防庁ウェブサイトをもとに作成)

資料3 救急安心センター(＃7119)の流れ



(総務省消防庁「救急車の適正利用」をもとに作成)

資料4 救急安心センターの効果

- ①不安な住民に安心を提供
 - ・利用者の約9割が「大変役に立った」「役に立った」と回答
- ②救急車の適正利用
 - ・軽症者の割合の減少
60.3% → 54.5%
(平成18年) (平成30年)
 - ・かくれた重症者を発見
- ③救急医療体制全体の※1円滑化
 - ・医療機関における救急医療相談や時間外受付者数の※2抑制

(＃7119(救急安心センター事業)関連情報をもとに作成)

※1 円滑化……物事がすらすら運ぶこと

※2 抑制……おさえること

問 あなたが花子さんなら、どのような発表原稿を作成しますか。次の条件に従って書きなさい。

条件1: 解答は横書きで1マス目から書くこと。

条件2: 文章の分量は300字以内とすること。

条件3: 数字や小数点、記号についても1字と数えること。

(例) 4 2 . 5 %

これで、問題は終わりです。

